

タイトル	国際ホロコースト記念日 - アウシュヴィッツ解放80年 -
著者	ジョルジェスク, アリーナ = アレクサンドラ; 木村, 和範; Georgescu, Alina-Alexandra; KIMURA, Kazunori
引用	開発論集(116): 235-240
発行日	2025-09-30

国際ホロコースト記念日

—— アウシュヴィッツ解放 80 年 ——*

アリーナ＝アレクサンドラ・ジョルジェスク**
木 村 和 範 (訳)***

ポーランドのナチス・ドイツ強制/絶滅収容所(アウシュヴィッツ＝ビルケナウ収容所)が解放されて、今年で 80 年が過ぎた。国際ホロコースト記念日には、収容所の跡地で大規模な追悼行事が開催される。ヨーロッパ各地で反ユダヤ主義が拡大する中で開かれるこの行事には、国家元首や政府首脳などの要人が数多く出席する予定である。

アウシュヴィッツ解放記念式典

国際ホロコースト記念日の 2025 年 1 月 27

* “International Holocaust Remembrance Day 2025: 80th Anniversary of the Liberation of Auschwitz,” *At a Glance* by European Parliament, Members’ Research Service PE 767.213 - January 2025, in the Website of the *European Parliament*, [https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/ATAG/2025/767213/EPRS_ATA\(2025\)767213_EN.pdf](https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/ATAG/2025/767213/EPRS_ATA(2025)767213_EN.pdf), accessed on Feb. 25, 2025. The translator notified the *European Parliament* of his intention to publish this translation in the No. 116 of this *Journal* in advance, submitting it on 14 June 2025. [] inserted by the translator.

** Alina-Alexandra Georgescu, Members’ Research Service, the European Parliament (欧州議会調査研究部)

*** Kazunori Kimura, Dr. oec., Professor Emeritus of Hokkai-gakuen University; Special Researcher of the Institute of Development Policies.

日(月)には、アウシュヴィッツ＝ビルケナウで、元ナチス・ドイツの強制/絶滅収容所が解放されてから 80 年目を記念する追悼式典が開催される。アウシュヴィッツの生存者全員にこの式典への招待状が送られ、そのうちの約 50 人が出席する予定である。式典のメインイベントは、元アウシュヴィッツ第二収容所(ビルケナウ収容所)のゲート[死の門]の前で挙行される。あのときの記憶を象徴するために、ゲートの前には 1 両の貨車が置かれることになっている。ナチス・ドイツは、あれに似た貨車を使用してユダヤ人を収容所に強制移送した。ドイツで製造された貨車は、ゲッターや隠れ家と「死の場所」との間を往復した⁽¹⁾。この貨車は、1944 年 5 月から 7 月にアウシュヴィッツへ強制移送された約 42 万人のハンガリー・ユダヤ人の御霊^{みたま}に捧げられる。

1945 年 1 月 27 日に赤軍の兵士が解放する

⁽¹⁾ “80th Anniversary of the Liberation of German Nazi Concentration and Extermination Camp Auschwitz 27 January 2025,” Website of the *Memorial and Museum Auschwitz-Birkenau*, <https://www.auschwitz.org/en/home-page-80/>, accessed on May 7, 2025].

までに、ナチスはアウシュヴィッツで約 110 万人を殺害した。そのほとんどはユダヤ人であったが、ポーランド人、ロマの人々、そしてソ連軍捕虜など様々な国籍の人々も殺害された。アウシュヴィッツ収容所が解放されたとき、そこには、わずか 7000 人しか生き残っていなかった。多数の生存者が発言することになっている式典には、欧州連合 (EU) とその加盟国から著名人が多数出席する予定である。欧州議会議長ロベルタ・メツオラと欧州理事会議長アントニオ・コスタも参加する。1 月 27 日の前後にポーランドで開催される様々なイベントは、EU 理事会議長国 (ポーランド) が主催するが、その他にも欧州各地では多くの追悼行事が開催される。

ホロコースト記念日の今日的意義

ポーランドをはじめとするヨーロッパ諸国の歴史に悲劇を刻むアウシュヴィッツは、全世界にとってホロコーストと第二次世界大戦の残虐行為を象徴するものとして最も強く訴えかける場である。アウシュヴィッツ収容所解放 80 年は、犠牲者を追悼するだけでなく、ヨーロッパ・ユダヤ人とロマの人々に対するナチスの大量虐殺^{ジュノサイド}の意味を世界的な規模で考える機会でもある。毎年恒例になっている国際ホロコースト記念日は、無関心であることの危険性だけでなく、固定観念や偏見を克服するために不断に警戒を怠らないことの必要性をも思い起こさせる。「二度と繰り返してはならない。」というあの言葉は、今日の欧州連合 (EU) の創設に直結している。

反ユダヤ主義とホロコースト否定論⁽²⁾、コンピュータ技術、ソーシャルメディア、外国

からの干渉とプロパガンダ。それらによって歴史の歪曲と矮小化が引き起こされ、増幅されている。そのような今日であればこそ、ホロコーストを記憶し、歴史から学ぼうとして努力することは、決定的に重要である。2024 年 7 月、EU の基本権委員会 (Fundamental Rights Agency : FRA) は、反ユダヤ主義についてのユダヤ人の経験と認識に関する最新の調査結果を発表した⁽³⁾。このときの調査対象は EU 加盟 13 ヶ国に及び、EU に居住するユ

(2) 「指数関数的に拡大している反ユダヤ主義とホロコーストの否定、歪曲、軽視は、現在ヨーロッパでは、コンピュータ技術とソーシャルメディア、外国からの干渉やプロパガンダによって増幅されている。欧州連合 (EU) は、努力に努力を重ねて有害な傾向に対抗してゆく義務がある。EU は、加盟国全体が反ユダヤ主義との闘い、ユダヤ人の生活の促進、ホロコースト教育の推進に関する戦略を実施できるように努め、もってユダヤ人コミュニティの安全な生活を確保し、歴史の歪曲を含む憎悪にさらされないよう努めなければならない。」(“Holocaust, Shoah, Hurban: Naming and commemorating the unspeakable, Briefing 26-04-2024,” Website of the *Think Tank European Parliament*, [https://www.europarl.europa.eu/thinktank/en/document/EPRS_BRI\(2024\)762297](https://www.europarl.europa.eu/thinktank/en/document/EPRS_BRI(2024)762297) [accessed on May 7, 2025].)

(3) 調査対象国は EU 加盟国 13 カ国 (オーストリア、ベルギー、チェコ、デンマーク、フランス、ドイツ、ハンガリー、イタリア、オランダ、ポーランド、ルーマニア、スペイン、スウェーデン)。調査期間は 2023 年 1 月～6 月、調査方法はオンライン方式。
(*Jewish People's Experiences and Perceptions of Antisemitism*, 11 July 2024, Website of the FRA, <https://fra.europa.eu/en/publication/2024/experiences-and-perceptions-antisemitism-third-survey#publication-tab-3> [accessed on May 7, 2025].) 各国のデータを含む調査結果 (*Jewish People's Experiences and Perceptions of Antisemitism*) は以下でダウンロードが可能。https://fra.europa.eu/sites/default/files/fra_uploads/fra-2024-experiences-perceptions-antisemitism-survey_en.pdf [accessed on May 7, 2025].

ダヤ人の約 96% をカバーしている。この調査は、2023 年 10 月のハマスの攻撃やガザでの戦争が起こる前に実施されたが、それでも、反ユダヤ主義を感じる割合は依然として高い結果となった。ほとんどのユダヤ人は偏見と敵意に直面し、表立ってユダヤ人としての生活ができないと感じている。

差別と反ユダヤ主義に対する 欧州連合（EU）の対抗措置

人間の尊厳、ならびに思想、良心、信教の自由の尊重、これらを基本とする EU は、懸念すべき差別と反ユダヤ主義に対抗する取り組みを強化してきた。EU 内務・移民担当委員マグヌス・ブルナー⁽⁴⁾ に対する業務命令書⁽⁵⁾ にあるとおり、同委員の責務は、反ユダヤ主義に対する EU の対抗活動⁽⁶⁾ の先頭に立ち、欧州連合基本条約第 17 条⁽⁷⁾ に基づいて、宗

教団体並びに哲学団体との対話⁽⁸⁾ を主導することである。2015 年に「反ユダヤ主義対抗調整官」を置くことを決めた EU 内務・移民委員会は、さらに 2021 年には「反ユダヤ主義への対抗とユダヤ人社会の振興に関する EU の戦略（2021 年～2030 年）」を採択した。この「戦略」の中には、教育、研究、ホロコースト（ショア）の記憶などの各分野で執るべき数多くの措置が盛り込まれている。2018 年、EU は、国際ホロコースト記憶同盟⁽⁹⁾（International Holocaust Remembrance Alliance：IHRA）に恒久的な国際パートナーとして加盟し、IHRA の加盟国ならびにオブザーバー諸国と緊密に協力し、ホロコーストの否定と差別、

(4) “European Commission: Magnus Brunner new Commissioner for Internal Affairs and Migration,” (News article 27, November 2024), Website of the *European Commission*, https://home-affairs.ec.europa.eu/news/european-commission-magnus-brunner-new-commissioner-internal-affairs-and-migration-2024-11-27_en [, accessed on May 7, 2025].

(5) *Mission Letter* by Dr. Ursula von der Leyen, President of the European Commission, at Brussels on 17 September 2024, Website of the *European Commission*, https://commission.europa.eu/document/download/ea79c47b-22f8-4390-a119-5115dc40fc3e_en?filename=Mission%20letter%20-%20BRUNNER.pdf [, accessed on May 7, 2025].

(6) “Combating antisemitism,” Website of the *European Commission*, https://commission.europa.eu/strategy-and-policy/policies/justice-and-fundamental-rights/combating-discrimination/racism-and-xenophobia/combating-antisemitism_en [, accessed on May 7, 2025].

(7) 欧州連合基本条約第 17 条第 3 項「欧州連合は、これらの教会及び諸団体のアイデンティティ並びにそれらが果たしてきた特有の貢献を認識し、諸団体とオープンで透明性のある対話を定期的に行うものとする。」

(Consolidated Version of the Treaty on the Functioning of the European Union, https://eur-lex.europa.eu/resource.html?uri=cellar:2bf140bf-a3f8-4ab2-b506-fd71826e6da6.0023.02/DOC_2&format=PDF [, accessed on May 6, 2025].)

(8) “Article 17 TFEU: Dialogue with churches, and religious and philosophical organisations,” Website of the *Think Tank European Parliament*, [https://www.europarl.europa.eu/thinktank/en/document/EPRS_BRI\(2018\)614658](https://www.europarl.europa.eu/thinktank/en/document/EPRS_BRI(2018)614658) [, accessed on May 7, 2025].

(9) 1998 年、スウェーデン元首相ヨーラン・ベルソンが設立した反ホロコースト、反ジェノサイドに取り組む国際団体。加盟国 35 ヶ国、オブザーバー 8 ヶ国。「ホロコーストの歪曲と反ユダヤ主義、そして反ジプシー主義（反ロマからの差別）を拡大させないためには、政治的な国際協調が不可欠であること」を共通認識としている。Cited from: “About the International Holocaust Remembrance Alliance,” Website of the *International Holocaust Remembrance Alliance*, <https://holocaustremembrance.com/who-we-are> [, accessed on May 6, 2025].

外国人排斥、反ユダヤ主義に歯止めをかけるべく取り組んでいる。

欧州議会の役割

1995年、欧州議会はすべての加盟国に対して「ヨーロッパ・ホロコースト記念日」⁽¹⁰⁾の制定を求める決議を採択した。アウシュヴィッツ＝ビルケナウの解放60年にあたる2005年1月、欧州議会は、1月27日を欧州連合ホロコースト記念日と定めた⁽¹¹⁾。さらに、この年の11月には、国連総会は毎年1月27日を「ホロコーストの殉難者を追悼する国際記念日 (International Day of Commemoration to honour Holocaust Victims)」とすることを決議した。その後、欧州議会は、毎年国際ホロコースト記念日に殉難者を追悼している。今年〔2025年〕1月29日、欧州議会の本会議では、ホロコーストの生存者であるコリー・ヘルマンを招いてホロコースト追悼式を挙行する予定である。

1979年、欧州議会初の直接選挙で欧州議会議長に選出されたシモース・ヴェイユ^{〔訳注〕}

は、女性として初めて欧州議会議長に就任したが、アウシュヴィッツの生存者でもあった。ヴェイユは、ホロコーストの記憶を留めるためには、ホロコーストを教えることが不可欠であると固く信じていた。欧州議会現副議長ピナ・ピチエルノ（社会民主党進歩連合、イタリア）⁽¹²⁾は、ホロコースト記念日と反ユダヤ主義との闘いを所管している。欧州議会が設置した「欧州歴史の家」⁽¹³⁾（ブリュッセル）は、ホロコーストを常設展示の一部としている。

2017年10月、欧州議会は、8月2日をホロコーストの殉難者であるロマの人々⁽¹⁴⁾を追悼する日と定め、毎年1月27日のホロコースト記念日には、ロマの人々も入れて追悼することを決議し、加盟国にその趣旨に従った行動を要請した⁽¹⁵⁾。同年6月1日に欧州議会は、反ユダヤ主義に関する決議案を採択し、加盟国にあっては、国際ホロコースト記憶同盟（IHRA）が定めた反ユダヤ主義

⁽¹⁰⁾ 「欧州連合（EU）の全加盟国に対して毎年『ヨーロッパ・ホロコースト記念日（European Day of Remembrance of the Holocaust）』の制定を求める。」（G-1 of “Resolution on a day to commemorate the Holocaust,” *Official Journal C 166*, 03/07/1995 P. 0132, <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/HTML/?uri=CELEX%3A51995IP0866&from=EN> [accessed on May 6, 2025].）

⁽¹¹⁾ Texts adopted, PDF 202k WORD 35k, Thursday, 27 January 2005 - Brussels, Website of the European Parliament, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/TA-6-2005-0018_EN.html?redirect [accessed on May 6, 2025].

^{〔訳注〕} 富原真弓『シモース・ヴェイユ』岩波現代文庫、2024年。

⁽¹²⁾ “Pina Picierno,” Website of the MEPs European Parliament, https://www.europarl.europa.eu/meps/en/124846/PINA_PICIerno/home [accessed on May 7, 2025].

⁽¹³⁾ House of European History, <https://historia.europa.eu/en> [accessed on May 7, 2025].

⁽¹⁴⁾ European Parliament resolution of 25 October 2017 on fundamental rights aspects in Roma integration in the EU: fighting anti-Gypsyism, Website of the European Parliament, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/TA-8-2017-0413_EN.html?redirect [accessed on May 6, 2025].

⁽¹⁵⁾ P8 TA (2017) 0243, Combating anti-semitism, European Parliament resolution of 1 June 2017 on combating anti-Semitism (2017/2692(RSP)), Website of the European Parliament, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/TA-8-2017-0243_EN.pdf?redirect [accessed on May 6, 2025].

の定義に準拠して、反ユダヤ主義からの攻撃をより効率的かつ効果的に特定し訴追するものとする、と定めた。また、2018年10月の欧州におけるネオ・ファシストによる暴力の増加に関する決議⁽¹⁶⁾は、ユダヤ人に対する暴力の増加に注意を喚起したが、加盟国に対しては、ホロコースト否定論や矮小化に対抗すること、そして教育の場でこの問題を重点的に取り上げることが求めた。

欧州議会は、人間の尊厳性の尊重、自由、マイノリティの権利、反ユダヤ主義に関する問題に幅広く光を当て、欧州連合（EU）における基本的人権の状況に関する決議案を定期的に採択している。例えば、2022年9月、欧州議会は、2020年および2021年における欧州連合の基本権の状況に関する2022年決議案⁽¹⁷⁾を採択したが、これは、反ユダヤ主義、人種差別、反LGBTIQ、反ジプシー主義、外国人排斥などを全体的に概観したものである。

2023年、欧州議会に設置された市民的自由・司法・内務委員会は、欧州連合基本条約第83条に定める犯罪リスト⁽¹⁸⁾を拡充すべく、その中にヘイトスピーチとヘイトクライムを含める作業に着手した。[同委員会の] 報告

書は、2021年に発表したコミュニケ（「今以上に幅広く人々を守り抜くヨーロッパ — EUの犯罪リストを拡大して、人種、宗教、ジェンダー、セクシュアリティを理由とするヘイトスピーチおよびヘイトクライムの犯罪をそのリストに加えるために —」⁽¹⁹⁾）に呼応している。欧州議会と欧州理事会は、この枠組みの中で、すべてのEU加盟国に適用される犯罪の定義と制裁に関する最低限の規則を定めることになるであろう。2024年1月18日の本会議で欧州議会は、委員会報告を承認した⁽²⁰⁾。

様々な政治グループの80人以上の議員で構成される欧州議会反ユダヤ主義対抗作業部会⁽²¹⁾は、EUの全機関、欧州議会の各グルー

⁽¹⁸⁾ 第83条に定める国境を越えた重大犯罪は以下を言う。テロリズム、人身売買、女性と子どもの性的搾取、違法薬物取引、違法武器取引、マネーロンダリング、汚職、支払手段の偽造、コンピュータ犯罪、組織犯罪。

(*Consolidated Version of the Treaty on the Functioning of the European Union*, https://eur-lex.europa.eu/resource.html?uri=cellar:2bfl40bf-a3f8-4ab2-b506-fd71826e6da6.0023.02/DOC_2&format=PDF [accessed on May 6, 2025].)

⁽¹⁹⁾ Document 52021DC0777: Communication from the Commission to the European Parliament and the Council, A more inclusive and protective Europe: extending the list of EU crimes to hate speech and hate crime, Website of the *EUR Lex*, *European Union*, <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A52021DC0777> [accessed on May 7, 2025].

⁽²⁰⁾ European Parliament resolution of 18 January 2024 on extending the list of EU crimes to hate speech and hate crime, Website of the *European Parliament*, https://www.europarl.europa.eu/docoe/document/TA-9-2024-0044_EN.html [accessed on May 7, 2025].

⁽²¹⁾ Working Group Against Antisemitism: Inform - Take Action - Combat Antisemitism, Website of the *Working Group Against Antisemitism: WGAS*, <https://ep-wgas.eu/> [accessed on May 7, 2025].

⁽¹⁶⁾ *European Parliament resolution of 25 October 2018 on the rise of neo-fascist violence in Europe*, Website of the *European Parliament*, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/TA-8-2018-0428_EN.html?redirect [accessed on May 6, 2025].

⁽¹⁷⁾ European Parliament resolution of 15 September 2022 on the situation of fundamental rights in the European Union in 2020 and 2021 (2021/2186 (INI)), Website of the *European Parliament*, https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/TA-9-2022-0325_EN.html [accessed on May 7, 2025].

プ、各国議会、非政府組織（NGO）と協力し、反ユダヤ主義的な個別の行為や継続的な振る舞いに対抗し、それを防止するとともに、攻撃された人々の保護活動をしている。

【付記】 本文書は、欧州議会議員および職員の議会活動を支援するための背景資料として作成された。本文書の内容は執筆者個人の責任によるものであり、本文書に記載されたいかなる意見も欧州議会の公式見解を表すものではない。非商業目的の複製および翻訳は、出典を明記し、欧州議会に事前に通知してコピーを送付することを条件に許可される。©European Union, 2025.

eprs@ep.europa.eu (contact)

<http://www.eprs.ep.parl.union.eu> (intranet)

<http://www.europarl.europa.eu/thinktank> (internet)

<http://epthinktank.eu> (blog)